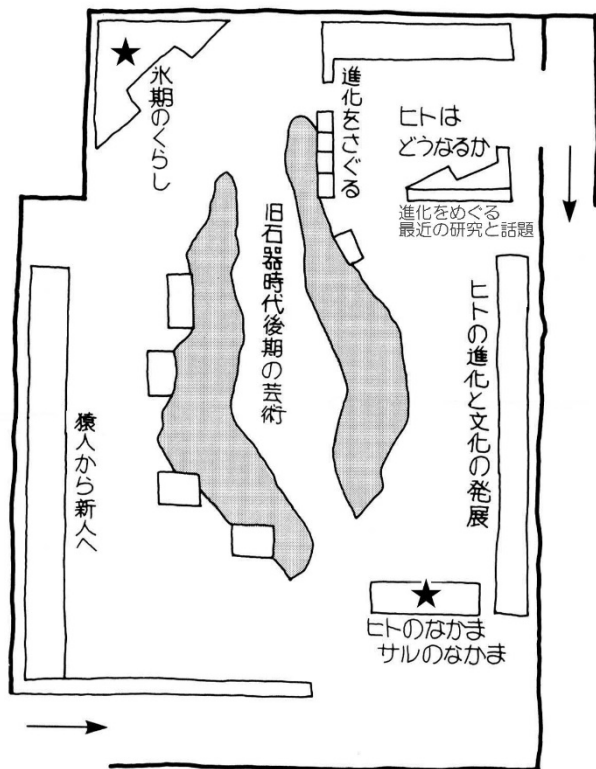


ほんかんだい しつ しんか
本館第1室：ヒトのはじまり——進化

ヒトが現在のような ^{からだ} 身体になり、現在のような文化を ^{はってん} 発展させる
 までには 600 万年とも 700 万年ともいわれる長い年月が
 かかっています。この展示室では、^{じんるい} 人類のなりたちとその ^{せいぶつてき} 生物的、
^{ぶんかてき とくちょう} 文化的特徴、そして全世界への ^{ひろ} 拡がりを ^{しょうかい} 紹介します。



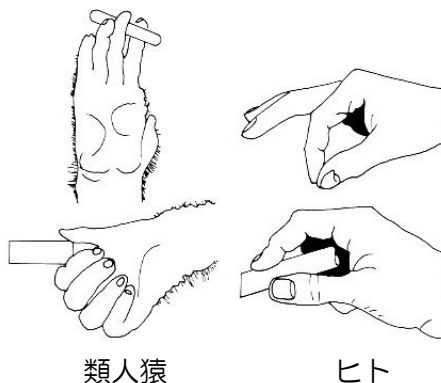
EVOLUTIONS

Through biological specimens and prehistoric artifacts, this hall examines the process of human evolution and the diffusion of human beings to all over the world.

ヒトの器用な手^{きよう}

ヒトは直立二足歩行をすることにより、両手が自由になりました。それだけでなく、ヒトの手は脳の^{のう}発達^{はったつ}と互いに作用しあって、たいへん器用な指さばきができるようになりました。

ヒトの手は、親指が長く、他の4本の指と十分に^{たいこう}対向しているの^ので物を上手に「にぎる」、「つかむ」、「つまむ」ことができます。いっぽう、類人猿^{るいじんえん}は親指がみじかいので、ひとさし指と中指とで、あるいは折り曲げたひとさし指と親指とで物をつかみます。



マンモスの骨で建てた家



シベリアでは、マンモスの骨や^{きば}牙で建てた数万年^{あと}前の住居^{あつ}跡が発見されています。直径^{ちようけい}約5mのドーム^{がた}型で、骨組みを丸太とマンモスの牙でつくり、その上に皮をかぶせた住居です。毛皮を^お押さえるためにはマンモスの牙や骨が利用され、ドームの^{せつち}接地部分の

まわりには、マンモスの頭部やアゴの骨がならべられていました。ジオラマでその様子を再現しています。身の回りのものを活用し、^{きのう}機能的な住居や衣服を発明して寒さを^{こくふく}克服した人々は、やがてアラスカへわたりアメリカ大陸を南下していきます。このようにヒトは、生物学的な変化ではなく、文化によって新しい^{かんきよう}環境に^{てきおう}適応していった結果、世界中へ広がっていきました。